

編集室から

新型コロナウイルスの制約がほとんどなくなって久々の黄金週間。みなさまは、いかにお過ごしでしょうか？

北陸新幹線も乗車率が100%となり、高速道路も最大で数十キロの渋滞予測。流石に多くの方々が、「遠出」を楽しまれたようです。

かくいう私も、これまで自重してきた両親宅への「帰省」を前半に致しました。卒寿を超えた父と、八十半ばを過ぎた母と、久々に語ることができました。

高齢になっても「聞こえ」を除けば、元気そのもの。父曰く「親父・お袋が亡くなった歳を超えたから、次は百が目標だな」

往路・復路とも早めの時間帯に移動したためか、大した渋滞には巻き込まれずに済み、こちらでも大助かり。

ロクな親孝行もして来なかったもので、その分孝行のできる日を、長生きして待っていてくれるのかもしれませんが。

母方の祖母は百を超える長寿。どちらも長生きの家系とすると、自分も相当長生きとなるはずですが、いくら高齢となっても、健康であることと、経済を伴っていることの重要性を改めて、実感した次第です。

大型連休後半は、嫁いだ娘が孫を伴って帰省してきます。

初孫が生まれたばかりの頃は、可愛さにウキウキしていましたが、やがて体力的にも「孫は来てよし。帰ってよし」を実感し始める始末。

これでは、残り(?)30年を健康で過ごす展望が、果たしてできるのでしょうか…。元来、身体を動かすことが苦手で、好む方ではないため、いささか心配です。

高齢者夫婦でなお、自立して生きている両親と、久々の乳幼児の世話にくだびれ気味の自分を比べて、自省しきりです。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラーザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2022/05
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2022/05
(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

泉 月



和歌山県有田川町にて
by hama

寄稿『三回目のワクチン接種は確かに有効だけれど』

サンポート高松クリニック 井垣 俊郎

三回目の新型コロナワクチン接種を終えて三週間たった方々が、抗体価の確認を希望して検査にいられています。私のクリニックは重症化のリスクが高いとされる糖尿病や高血圧の定期受診者が多いので、感染を調べるためのPCR検査や抗原検査は行っていない。しかし感染しないワクチン接種から時間が経たないと陽性にならないウィルス抗体価の検査に限っては、要望があつてずっと続けてきました。

◎
二回目の接種後も、数十人の方が抗体価の検査をされました。その方々の抗体価は、せいぜい数百〜数千だったのですが、三回目を終えた方では全員が万を超え、測定限度の二万五千以上の振り切れも半数近くありました。数値として、文字通り桁違いです。抗体価が免疫力の全てではありませんが、逆に抗体価だけが突出して変化するとも思えません。免疫全体が、大きく活性化されたとみるべきでしょう。少なくとも、重症化の予防効果は確実に高まっていると考えられます。

◎
同じような情報がないか調べてみると、医療従事者を対象にした4千人近い規模の観察研究が厚生労働省のホームページ (www.mhlw.go.jp/content/10601000/000928717.pdf) から閲覧可能でした。その結果でも、三回目接種に

よりの抗体価は平均で約五十〜百倍という大幅な増加を示していました。

- ◎
- しかし、喜んでばかりもいられません。以下のポイントは、解決されずに残っています。
- ① いくら抗体価が高くても感染の危険性はゼロにならない
 - ② いくら抗体価が高くても時間が経てば必ず低下する
 - ③ いくら抗体価が高くても新たな変異株が現れたら無意味になるかもしれない

◎
副反応に関しても、巷で言われる通り三回目はやや強いような印象があります。その理由も、説明できない訳ではありません。二回のワクチン接種で免疫系は相当強く刺激され、三度目のウィルス増殖は許さない万全の体制を整えたはず。そこに三回目のワクチン接種をすると、増えるはずの抗原が体内に大量発生するという事態になります。これは体にとって、想定外の重大事件です。あくまで個人的な憶測に過ぎませんが、桁違いに高い抗体価は体が異常反応している結果なのかもしれません・・・。



【プロフィール】
(いがき としお) 金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。

濱の起業塾 三十七『出口戦略①』

社会起業においては、しばしば特産品開発や、新しいビジネスモデルの構築を求められることが多い。モノの例の方が分かりやすいので、モノづくりの面における出口戦略について、しばらくお伝えしたい。

ここで言う出口戦略とは、証券・金融系や軍事方面でいう「被害最小化撤退戦略」ではなく、開発した製品の売り先、つまり確実な市場創造を、いかに戦略的に考えるかというものとなる。

実は、「開発した製品の売り先」という言葉を使っている時点で、すでに出口戦略としては失格となる思考パターンであり、出発点からして拙い。

往々にして社会起業の現場では、資本力が小さく、経営体力などないに等しいことが多い。自治体が出資者の一部となる第三セクターにおいても、資本金の払込はしても、設立以降、赤字の垂れ流しに対する補填を議会が安々と認めることは期待してはならないだろう。

最小資本で、最大の地域経済効果を求められる社会起業において、開発したモノが、売れずに在庫として積み上がっていくことは、最も避けたいリスクの一つであることは容易に理解できる。これは、

「作ってから売ることを考える」思考パターンに従って行動すると、必ずといってよいほど顕在化する。

モノづくりには相應の時間と資本が要る。そうであるからこそ、リスク顕在時の損失も小さくはない。

売れずに在庫化するリスクを回避したいのならば、「作る前に売り先を見つける」のが正しい。が、この話を民間の事業者が聞くと、おそらくほとんどの方が失笑されることだろう。「そんなことが事前にわかっているなら苦労はしない」と。

開発し、生産し、販売することを生業としている民間企業でさえ、相当な努力と資本投下をして、それらのリスクを最小化する出口を見出そうと日々模索している。

そうであるならば、資本力も経験値も小さな社会起業の現場であるからこそ、彼らのやり方を学ぶ必要がありはしないだろうか。

モノは作ってしまったら、売らねばならない。作る前から売り先を、より確実に見通すにはどうしたらよいのか、どのような考え方を応用すれば、よりよい成果が得られやすくなるのか、それが出口戦略を構築するために必要な、最低限の教養なのかもしれない。すくなくとも丸腰で市場に挑む愚は、避けられるのではないかと思う。

パラレルワーカーという言葉をご存知だろうか？複数の職業を並行してこなす労働形態のことを指し、近年、個人事業主（フリーランス）の中でも徐々に増えつつある。仕事に対する価値観の変化、雇用形態の多様化、リモートワークの普及等が、この動きを後押ししているようだ。

1年半ほど前から、私はまさにこのパラレルな働き方を実践している。悩みと楽しみもまたパラレルに進行するなど、実に刺激的な毎日である。

私は、任期制教員として10年間勤務した福井県立大学を、2020年9月に雇い止めとなった。それと前後して、能動的に就活を行なってきたが、未だ常勤雇用が叶わずにいる。

ありがたいことに、仕事の機会は多くいただいている。受動的に流れに身を任せた結果、帰せずして4業種、7つの肩書きを現在名乗ることができる。

1業種目は観光地域づくり団体。(一社)DMOさかい観光局 専務理事を、昨年11月に拝命した。東尋坊や丸岡城を有する福井県坂井市の観光振興を担っている。週に2日ほど、東尋坊にある事務所に勤務している。

2業種目は公立の教育機関。福井大学、福井県立大学、福井県立坂井高等学校で非常勤講師をさせていただいている。観光学に関して、その概論から観光マーケティング論、観光まちづくり論等の各論までを教えている。福井大学は2年前からだが、県立大学は昨年9月、坂井高校は今年4月からである。現在、週に5コマを担当している。

3業種目は民間の教育機関。(一社)BEAU 理事として、全国の高校生を対象にオンラインによる地域密着型探求学習プログラムを提供する会社の経営に参加している。若い起業家や大学生とともに、新しい教育モデルを模索中である。

4業種目はまちづくり団体。(特非)まちづくりカレッジSakai 顧問としてまちづくり人材の育成に励むとともに、(一社)アーバンデザインセンター坂井 副センター長として空き家再生等にも関与している。

読者の方々や他の執筆者にも、パラレルワーカーがいらっしゃると思う。次号以降、“パラレル”をキーワードに筆を進めていく予定だ。

若干、自分語りに過ぎる内容になるかもしれないが、どうかご容赦いただきたい。

ウクライナへのロシア侵攻、ロシア軍によるジェノサイドの疑いやプーチンの核兵器使用への言及など、世界を揺るがすニュースが飛び交う中で、今回はMCI(軽度認知障害)について触れてみたいと思います。僕が実家の家業を承継するに至った大きな原因のひとつが父がMCIと診断された事でした。

MCI＝軽度認知障害は認知症の一手手前の状態を指します。認知症におけるもの忘れのような記憶障害が出るものの症状はまだ軽く、正常な状態と認知症の中間と言えるようです。よってアルツハイマー病によるMCIとは、アルツハイマー型認知症になる一手手前の段階であり、現在の医学界では、放置することでいずれはアルツハイマー型認知症を発症すると考えられています。アルツハイマー型認知症との違いは、いずれも「認知障害」はあるものの、重要な点はその認知障害によって「日常生活において周囲に影響を及ぼすほどの支障をきたしている程度かそうでないか」になります。なにげない日常の会話や、短期間一緒に過ごした程度では気づきにくいのがMCIです。

実際月の半分を両親と一緒に暮らしているのですが、最初は父がボケたというのが信じられないほど普通といえますが、年に2～3度帰って話していた時との違いや変化がわからなかったのですが、一緒に過ごす時間が増えていくと、次の行動や言動が見えてきました。

- ・人との約束をよく忘れる。
 - ・数秒前に持っていたものをどこに置いたかがわからなくなる。
 - ・割と最近で知った人の名前はもちろん、顔が識別できない。古くからの知り合いに関してはそのような兆候はなし。
- というのは40代の私でも忙殺されていたり、ある程度年齢を重ねるとたまにやってしまうことなのですが
- ・人の感情に対して興味そして認知する能力が低下する。人がどう思っているか、どう考えているか？という事を気にしないというか、見えなくなってくる。
 - ・ある起きた問題に対して原因がわからない、脳の中でアップデートされない。だからいつも同じことを繰り返す。
 - ・よかった時代のことばかり口にするようになる。つまり問題認識や課題解決力が低下するため現実から逃避しはじめる
 - ・そして怒りっぽくなる。自分に対する焦りであり、周囲の人間からの指摘などに対する不満などが怒りという形で表現される。

というバッドループに陥っていきます。75歳の定年した後期高齢者であれば、ほとんどが家族内での問題で済むのですが、これが十数人とはいえ社員を抱える会社の代表者の話となると、話が違ってくるわけです。

今現在、月の半分しか僕も能登にいれないため、案件管理や従業員のケアが十分にできておらず、また、電気工事業という職人の集まりという組織特性や下請け案件が主という事業構造による設定しづらい顧客価値等々といった内部環境もあり、この業界での経験値が全くない僕ではガバナンスを発揮しにくいという状況であり、日々「これどうすっかなあ」が口癖になっちゃってます(笑)。とまあ泣き言を言いながらも、前には進まないといけなくて、せめて「なんとかなるやろ」くらいにはポジティブにいきたいなと思っているのですが。

今現在東京と能登との二拠点生活をしていくなかで、父という近い存在であり、親という存在の人間が思い悩み、老いていく姿を間近で見てしまうことに僕も初めて老いや死に対する恐さを感じたとともに、30年近く離れていた子が父から何を引き継いでいくのか、そして僕自身も親として子ども達にどうい姿を見せていかねばならないのかという「生きていくこととは」というものを改めて考えさせられました。

『相模の国から ～大魔神のたび～ 』 茨城県境町のこと 茨城県境町 参与 溝口 久

神奈川県南足柄市を退職後の昨年9月から茨城県境町の参与を務めている。なぜ境町？と訊かれることが多い。静岡県小山町にまちづくり専門監として在籍していた時に南足柄市長にも境町長に出会っている。当時小山町長であった込山さんが町長選に令和に入る直前の町長選に敗れたのを機に両首長から「うちに来ないか」とのオファーがあり、近さを優先し南足柄市に着任した。一年間の勤務を経て今度こそ境町ということで務めることになったが、転居して務めることは叶わないと申したところ「月一度でいい」とのこと、それならばと引き受けることにした。

境町は、埼玉県、千葉県、茨城県の県境に位置し利根川と江戸川の分岐点にあるため古くは江戸と奥州を結ぶ水運交通の要衝として栄えた。鉄道駅が無いこともあって衰退傾向にあったのが、平成26年に38歳の橋本氏が町長に就任、27年の圏央道開通を契機に飛び鳥落とす勢いのある町になっている。

町が用意してくれた名刺の裏にはその勢いがわかる内容が記されている。1 楽しいね！「関東最大級！二万発超え利根川花火」「隈研吾設計 レストラン茶蔵」 2 発展しているね！「全天候型公園ニコニコパーク」「I.C.周辺に進出企業多数」 3 美味しいね！「ローマ教皇献上 さしま茶」「高級豚肉 梅山豚（めいしゃんとん）」 4 近未来だね！「全国初常時運行 自動運転バス」とある。

わずか2期8年でここまでやるとは！小山町長並に凄い。相当な自治体経営センスがないとできない。当然のことながらお金がなければ始まらない。

橋本町長就任の2014年に4億6,500万円あった地方債残高が、2020年には3,393万円まで減少している。また同時期に町の貯金約7億円だったものが32億9千万円にまで増加している。これはふるさと納税が2014年に3,257万円が2021年は50億円程になっていること、太陽光発電事業で毎年6,000万円による収入増等、企業誘致による税収アップ、企業版ふるさと納税日本一、地方創生関係補助金の獲得などによる。支出に関しても、公用車を中古車に変更、パソコン買い替えをネット購入、電力会社の見直し、水道事業の見直し、エレベーター保守点検会社の見直し、保育園の民営化、社会福祉協議会の改善、施設管理公社の廃止など、財政面の立て直しが効果を上げた。

多くの自治体で真似たらいいことが多い。今年4月から神奈川県松田町と福岡県築上町の参与も務めているが、特に境町の施策で参考にしていることがある。「境町モデル！借金を増やさない新しい公共施設 維持管理費ゼロの公共投資」がそれだ。

地方創生に適う施設の工事費に対し、半分を国の補助金、それに加え交付税措



置があるから町の持ち出しは全体の1/3程度になる。整備した施設を民間に貸し、その賃料で町の負担分を返してもらう仕掛けだ。境町はこれで隈研吾設計の建築を次々と建てていく。道の駅レストラン、干し芋カフェ＋工房、ギャラリー、サンドイッチ店で6施設に及ぶ。今年もまだできそうだ。

現在、松田町の西平畑公園と築上町のアグリパークそれぞれのリニューアルに向けた整備管理運営事業を境町モデルでやってみようと思論んでいる。

境町で最も注目を集めている事業は日本初の自動運転バスの常時運行だ。町長が2019年11月26日に東北地方で行われていた自動運転バスの実証実験のヤフー記事をみつけ、実証実験の事業者であるSBドライブの佐治社長に12月26日に会う。翌年1月9日に臨時議会を開き予算承認を受けた。1月15日には町民試乗会。フランス製ナビア アルマを3台入手し運行が11月26日に始まっている。ヨソがいつまでたっても実証実験なんてやっているのを横目に！

都市計画道路でもなく歩道もない道路を時速20kmでスイスイと走っていく、後ろに続く車も慣れたものか、停車のタイミングで追い越していく。

予算は5年間で5億2000万円。財源は1/2が地方創生交付金、1/2がふるさと納税である。ソフトバンクの子会社であるボードリーが運行及び、管理業務を担っている。

この自動運転バスは『さかいアルマ』と名付けられ、2台の車体デザインは境町出身の現代美術アーティストの内海氏が手掛けている。自動運転技術はレベル1～5までのうち、2に該当する。レベル2まではドライバーが監視、レベル3以降はシステムが監視する。信号対応と路上駐停車の回避をドライバーが処理している。ハンドルはもともと無く、ゲームのリモコンのようなもので操作している。

さかいアルマが走り始めて1年経ち、町民からは「子供の習い事の送迎が不要になった」「アルマの速度に合わせ車が制限速度を守るようになった」「免許返納してしまったので助かっている」「路上駐車が減った」「人の流れが増えた。道の駅などの観光スポットが以前よりにぎわっている。自動運転バスに乗りたい、見てみたいという理由で町外から訪れる人もいる。町内に複数の観光施設をつくり、それらをつなぐ移動手段を整えたこと、先進的な事例としてメディアやガイドブックに大きく取り上げてもらえるようになったこと。これらが重なり、経済効果につながっているように思う」

町長の曰く「境町は鉄道の駅はなく、車がないと生活ができない。我々が挑戦するこの取り組みが地方の課題を解決するモデルケースになれば」「目指しているのは、境町はずっと住み続けられる町だという安心感をもってもらうこと。自動運転バスはその手段のひとつにすぎない」

現在46歳、3期目に入った橋本町長の新たな挑戦にまだまだ目が離せない。参与として仕事をするというよりも学ぶことのほうが多い、境町で学んだことを他の自治体に繋げることが私の役割なのかもしれない。

